

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202387		
法人名	医療法人愛和会		
事業所名	ハナレイ 倶楽部 グループホーム B		
所在地	佐世保市城山町3-21		
自己評価作成日	令和3年12月1日	外部評価結果確定日	令和4年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4270202387-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14-12
訪問調査日	令和4年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事に關して全てのスタッフが自ら献立を考え調理している。季節に応じたメニューや入所者の希望を聞いたりして毎食美味かったと言われる方がいます。午前・午後と1日2回のレクリエーションを行い、運動の機会を提供している。また10月より施設外の外出を開始した。毎朝のバイタル測定や声掛け・看護職員の対応で、体調変化の把握に努めご家族に安心していただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1つ目は身体拘束をしないケアの実践より、正確な情報を得ることに重点を置いて、まず入居者の身体及び認知機能を正確に把握することが、身体拘束や虐待をしないケアの原点であると認識している。つまり、利用者の現時点における状態像やレベルを正確に把握することで無理のない安全な支援につながり、支援の際に医療との連携を図ったり、必要な員数を揃えた上で介助に当たる等個別ケアの実践とも連動している。2つ目は運営に関する家族等の意見の反映より、コロナ禍の中、佐世保市に警戒警報や重点措置等が発令されない限り面会を制限せずに、感染予防等には十二分に配慮した上で家族等の入居者に会いたいという要望に答え続けた点は評価に値する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	詰所に理念を提示しており毎日朝の申し送りの後に唱え、スタッフ間で共有している。	入居者は年々年を重ねて、徐々に機能低下してくことは否めないもので、理念の文言通り無理のないように、「安全で安心できる熟練した介護」を提供できるように努めている。「熟練した介護」とは入居者のちょっとした変化に気づくことから始まり、日々の関わりの中で利用者の歴史や、その人らしさを知り続けることとハナレイ倶楽部では解釈していた。また、理念の実践について職員とどのように共有しているかという、気づいたその時にその場で理論的に説明を行っているとのことであった。また、説明だけではなく、「私だったらこうしてみる」等、管理者はヒントを与えながら職員が少しずつ理解を深化できるようにマネジメントしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物は近くの店を利用している。また業者の訪問も多い。コロナ禍前は近隣の学校から職場体験の受け入れも行っていた。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で地域住民の往来や、今まで出向いていた地域の様々な場所への外出活動は控えているとのことであった。しかしいつまでも接点を途切れさせるわけにはいけないということで、ハナレイ倶楽部の所在する地域の感染者数が減少傾向にある時は、一時的に外部との接触(面会等)を緩和したり、人との接触に十分留意して近隣を散歩する等、状況を見ながら少しずつ地域と触れ合う機会を増やしていく方針である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	11月に市内の高等学校の福祉科より、インターシップの受け入れを行った。今後もそのような機会をもち地域に還元していきたい。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の方針で、コロナ禍にて書面開催し構成員の方には報告と意見・要望のFAXで意見・返事を頂いている。内容は市が決めている標準項目と異なるテーマ、構成員の方のFAXを議事録作成して市に提出している。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で集合型の会議はできず、書面回覧型の方式で代替開催としている。報告書の内容は運営の状況（入居者の状況・職員配置数・事故発生状況・内外研修・年間行事）に加えて消防訓練実施報告書等であった。集合型の時はちょっとした会話の中から相談を受ける等広がりがあったが、回覧型になってからは情報が一方通行になりがちとのことで対策を悩んでいた。	書面回覧の資料の中に地域住民の方や、その他参加者の方が興味を引くような健康情報や、認知症発症予防の生活習慣等、事業に関連する情報を提供して、このよう取組みから話が広がり、問い合わせ等に発展する可能性が高まる為、興味をそるようなきっかけ作りを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在コロナ禍で定期的な関りがなく、書面での運営推進会議や認定調査の更新を行っている。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で運営推進会議が開催できないため、定期的な接触は途絶えているが、運営推進会議の回覧を配布することと、ホーム長が都度、尋ねたいことがあれば連絡をしているとのことである。今後、コロナ禍が終息したら集合型に戻して、定期的に市職員と交流を持つ方針であった。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	被介護者に合った介護方法を考え、安全確保に努めている。またハナレイ会にて勉強会で意見交換を行い、より良いケアの実践につなげている。	身体拘束や虐待に関する基本的な考え方は、法人内研修や委員会活動にて定期的に行っているが、ハナレイ倶楽部では基本的な知識に加えて、入居者の心身の機能をよく知ることが身体拘束や虐待の予防に繋がるという考えを持っている。つまり身体のことや認知機能のことを正しく知れば、正しい介護方法を導くことができるという考え方である。また、言葉による制止(待ってください等)は、職員の数を考えるとどうしても使わざるを得ない状況があるので、毎回居室への誘導等順番が最後の方になって、長く待ってくれる入居者への配慮を忘れず、感謝の気持ち等の声掛けを多くしているとのことであった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて学ぶ機会を設けている。また、日頃よりスタッフ間で話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会が持てるよう検討している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、十分に説明を行い納得していただけよう努めている。変更が生じた場合も丁寧に説明し、同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時には、話しやすい雰囲気を作り現状報告を行い、要望も聞けるよう心がけている。遠方の方には、電話や郵便で定期的に連絡を取っている。	新型コロナウイルス感染者数が減少傾向にある時期は、時間や場所を限定して面会できるように規制緩和していたため、ハナレイ倶楽部の職員もご家族様と接する機会を持つことができていた。以前と比較して要望等は減ったとのことであるが、引き続き声掛けを多くして関係構築に尽力するとのことであった。また入居者については、3階のユニットで飼い始めた犬の話題が中心とのことであった。現在、3階のユニットに犬嫌いの入居者はいないようで、皆かわいがっている犬はアイドル的存在とのことであった。特に犬に対する要望等は今のところないが、苦情になりそうな排せつ面や鳴き声には気を配っているとのこと。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているカンファレンスで意見交換をしている。日頃より、報告・相談できる体制ができている。	毎月定期的に行っているカンファレンスは主に入居者の支援に関する内容が中心になるため、一般職員の要望等については管理者が日常的に気がけて、話しやすい距離感作りに努めている。また、ハナレイ倶楽部は開設して20年弱経過するため、色々と設備面において故障する場面が目立ってきたとのこと。故障が発生したらすぐに担当の職員が駆けつけて対応してくれるから、大変助かっている様子であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には手当があり、少しの勤務以外の残業手当もついている。休憩室は別の階にあり、ゆっくりと休めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフに合った研修会を受ける機会を設けている。今年度は、基礎研修3名(2階1名・3階2名)、介護実践者研修1名参加した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会への参加や、グループホーム連絡協議会の会合や研修会参加をその機会としている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の要望や不安に耳を傾け、安心して楽しい生活が送れる様にできる事は行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見を取り入れている。面会時や電話にて現状報告を行っている。発熱や事故が発生した時はその都度連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を聞き必要な事はなるべくサービスに反映できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その時々のおい・できることや習慣を尊重し、食事やおやつ作りに関わって頂ける様にしている。趣向に合わせたレクの選定をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	変化があれば報告を行い、状況を知って頂けるよう努めている。又ご家族の協力が得られるものについてはお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出話や懐かしい話など、ご本人様より話を聞いている。又電話連絡ができる機会を設けている。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、思うように外出支援ができないため、職員はもどかしい思いを抱いているようであった。このような中でも以前から関わりのあった訪問理美容師の方がハナレイ倶楽部に来てくださるようで、入居者も楽しみに待っている様子であった。その他、面会できるように緩和しているため、入居者の同級生が訪問してくれたり、入居者の娘さんのお友達が尋ねてくれたり、往来は絶えることなく続いている様子であった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	見守りをし、利用者様同士がコミュニケーションを取りやすいように配慮している。お茶・食事などの時間はリビング・ダイニングにて過ごしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡があれば丁寧に対応している。また施設外でご家族と会った際には、状況をお尋ねしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時ご家族の話や生活歴を考慮したり、入居後の会話で意向や希望を可能な限り対応できるよう支援をしている。	入居時にご家族様から入居者の体調やハナレイ倶楽部での過ごし方を聞いている。ある入居者が食事を度々残すことがあり、尋ねたところ、〇〇が苦手と言う事がわかり、違う調理法やメニューに変更して提供している。コミュニケーションが難しい入居者には、動作を良く観察して動きを読み取り介助を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カルテやフェイスシートの確認、及びご家族やご本人からのお話を聞き把握するよう努めている。またレクリエーションをその機会としている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックを行い、状態の変化などを観察している。又表や記録を活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い、その方に合った支援の方法を考え、見直しをしている。ご本人に説明できる方には行っている。ご家族には状況報告と説明・同意を得ている。	計画作成者は職員に入居者の動作等について詳しく聞き取りを行い、入居者の介護計画を作成している。コロナ禍のためご家族様からの要望や意見を聞き取る事が難しいため、介護計画についてはハナレイ倶楽部より、詳しく説明して承諾を得ている。毎月のカンファレンス時には、職員からの意見を記録しておき、次の介護計画に活かしている。どうしても身体機能の低下が見られる入居者には、体力に合った介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき・様子を詳しく記事に残し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、ご本人・ご家族様の意向に沿ったサービスが提供できるよう考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて、地域資源との協働はあまりできなかったものの、近所の店を利用して買い物などは続けていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人で、病院併設のため定期受診や急変時に対応できている。歯科その他の往診も受けられている。急変時には24時間の後方支援も受けられるようにしている。	入居した後も以前からの、かかりつけ医が継続できるよう支援している。ハナレイ倶楽部では、入居者の口腔ケアを重視しており、毎月協力歯科医院の検診、治療を行っている。受診報告については、発熱等の受診や薬の変更があった場合は、その日の内に電話でご家族様へ報告している。夜間緊急搬送が必要と思われる場合、管理者、看護師の指示を仰ぎ、協力医療機関へ搬送している。薬については、看護師が管理しており服薬確認は職員が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専属の看護師に、毎日の申し送りやその都度の報告で対応してもらい、助言・指示をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、病院との情報交換ができている。コロナ禍前は、面会もしていた。入院後、1ヶ月はお部屋をそのままにしてしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期をどこで過ごすか治療・延命の希望等、入所時と重度化時に聞き、なるべく意向に沿えるよう支援している。基本看取り介護まで行っている。	ハナレイ倶楽部では、看取りを行っており、過去1年以内に1件の看取りを行っている。入居時に契約書、重要事項説明書の説明と共に看取り介護についても説明している。重度化した場合は看取り指針の説明を行い、看取りが近くなった時には、ドクターとご家族様と話した後、看取り介護についての同意書に署名をもらい、決められた介護援助を看取りマニュアルに基づいて行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを用意しており、いつでも目を通し確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	夜間帯の想定、防災時の避難経路の確認など年2回の訓練を実地している。消防署や業者の方の指導で消火器の取り扱い・避難はしごでの避難も経験した。調理にはIHヒータを利用している。	消防計画に基づいて避難訓練を年2回実施している。内1回は夜間を想定した訓練である。同日、自然災害時に想定した避難経路についても確認している。非常時の食料等の備蓄については、水、パックご飯、缶詰、カップ麺等を2～3日分を備蓄している。消防設備の点検に関しては、業者へ依頼しており、消防用設備点検結果報告書を受け取っている。ロールカーテンの防災製品については防災マークが確認できている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮して言葉かけや介助を行っている。他者の前で大きな声で注意する事はしないようにしている。	年6回行っている勉強会の中で接遇に関しての項目で接し方、入居者の呼び方等を再確認という形で勉強し、共有している。共有スペースにいる時の入居者へのトイレ誘導の声掛けについては、他の入居者に気付かれ無いう、さりげなくお声を掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中から希望を確認しており、できる限り希望に沿えるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いはずらずっくりとした気持ちで生活していただけるよう配慮している。入浴等で拒否感が強い時は、日にちを変更したりして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容のサービスを受けられるようにし、カット・カラー・パーマ等思い思いになさっている。洗濯は毎日行っている。一緒に着る服を選んだり変化があった時は思いっきりほめている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き・テーブル拭き等して頂いている。スタッフが自ら献立を考え、交代で調理している為様々なメニューを提供できている。おやつ作りも行っている。	職員全員の持ち回りでメニュー作りから調理まで行っており、メニューに関しては入居者の希望を取り入れている。食事メニューはホワイトボードに掲示し、入居者へ周知している。入居者の誕生日には希望メニューを調理し、提供している。片付けに関しては入居者の一部に自発的に手伝ってくれる入居者がおり、楽しく行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている役立っている。	食事の形態・量等は、一人一人に合わせている。摂取量をチェックし、体重変化などの確認に役立っている。		
42		口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。見守り・声掛けを適宜行っている。必要に応じて舌ブラシの導入・義歯の消毒も支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、声掛け・誘導を行っている。トイレに行かれた際は、パットの確認をし、いつも清潔に保っている。一人ひとりにあった介護用品を選び使用している。	排泄チェックシートの記録により、入居者のパターンを読み取り職員全員で共有し、介助を行っている。失敗した時の介助はさりげなく促し、介助している。特に入居者の担当は決めておらず、職員全員で介護に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事毎のお茶とは別に、お茶の時間を設けている。又必要な方にはその都度提供している。飲水の促しの他に運動の声かけを行っている。更に内服で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、気持ちよく入浴して頂けるよう入浴剤を使用するなど工夫している。	週2回の入浴を基本としており、入浴時間の決まりはあるものの、入居者の希望により変更も行っている。シャンプー、リンス、ボディソープは、ハナレイ倶楽部で提供しており、希望があれば入浴剤も使用し、入浴を楽しんでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時は無理強いせず、休息していただいている。一人ひとりの入床時間に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	身体症状や内服内容・変更時は申し送りしている。処方薬の情報をまとめたファイルがあり、いつでも確認できるようにしている。誤薬がないよう名前・日付け等声を出して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの中で生活歴を聞き出し、輝いていた人生を思い起して発言して頂く。季節毎の屋外レクリエーションやドライブの実地・誕生会の開催をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	最近までコロナ禍で難しい部分があって、施設の近所や屋上に行き気分転換の機会を提供できるよう努力した。10月より面会・外出ができるようになりご家族に協力を依頼しました。	ハナレイ倶楽部は、交通の便も良く緑も比較的に多く、季節の花々を楽しみながら過ごしている。散歩について、基本は全員で楽しみ、何より安全を第一に考え5分～10分程度楽しんでいる。新型コロナが治まった後には、ドライブを兼ねて郊外レストランへ食事を計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設では買い物をする場面が無いが、小銭程度を手元に置いておくことで安心されてる方もおられる。ご家族からの預かり金にて買い物の支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話には24時間対応できている。ご本人様の希望時には、スタッフが必要性を判断し行うようにしている。中には携帯電話を持たれている方もあり操作が難しい時はスタッフが支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度の管理をしている。季節の花を欠かす事なく飾っている。レクリエーションの成果物などを提示している。室内の大きな窓から外の景色を見て、季節を感じる事ができる。	共用空間は、毎日職員が清掃しており、年2回は業者によるワックス清掃をしており清潔に保たれている。壁にはコルクボードが設置されており、毎月季節を感じて頂けるように手作りの飾りがされている。入居者がすぐに見えるところに温度、湿度の表示パネルがあるので、いつでも確認が出来るようにしている。常にテレビはつけているが、最近はユーチューブを流して、演歌等を歌い楽しんでいる。レクリエーションにおいては、回想法による、昔なつかしい写真や言葉、昔使っていた家庭用品などを見て、経験や思い出を語り合って認知症の進行の予防に役立てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやダイニングの椅子など、思い思いの場所に座られ談話やテレビ視聴をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より、思い出のある物を持ってこれる工夫されている。ご本人様の使い易い家具を設置されている。	居室の清掃は、毎日職員が行っており、温度、湿度についても入居者の希望に沿って管理されている。持ち込み品については、以前から使い慣れているタンス、手鏡、ご家族様の写真等に加え、以前生け花をされていた入居者が高札を持って来られ居室に配置、時折思い出を話される事がある。夜間には、居室の扉を少しだけ開けさせてもらい、見回り時に入居者を起こさない工夫と共に安全を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフは見守りをし、事故が無いように支援している。安全に移動できるよう、トイレ・浴室などをわかりやすく表示し、手摺りも設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202387		
法人名	医療法人愛和会		
事業所名	ハナレイ 倶楽部 グループホーム A		
所在地	佐世保市城山町3-21		
自己評価作成日	令和3年12月1日	外部評価結果確定日	令和4年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4270202387-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14-12
訪問調査日	令和4年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月一回外出または行事を行い、利用者様の気分転換を図っている。毎食スタッフが手作りをして提供し、誕生日には好きな献立を作る等工夫している。体調に変化があれば臨時受診などで対応し安心して過ごされている

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に理念を復唱する事で共有し、実践につなげるよう努めている			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物は地域の店を利用し、天気の良い日は散歩に出ている。窓から散歩中の人と手で会釈する等、交流できるよう努めている			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学・高校からの職場体験を受け入れている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の利用状況や行事の報告等、情報を提供している			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、必要に応じて連絡を取っている			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回の勉強会において知識の向上を図り、夜間以外の施錠を行っていない。スタッフ同士で意識して注意しあう等、積極的に取り組んでいる			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて知識の向上を図り、日常的にスタッフ同士で協力し支援する事を心掛けている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の中で権利擁護について学ぶ機会をもち理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や入居前等に説明を行い、理解・納得して頂けるよう努めている。又不安や疑問点等いつでも対応できるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会の際にはコミュニケーションをできるだけ取るように努め、要望や意見を伺うなどしてできる事は対応する様努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスにおいて意見・提案する場を設け話し合い、業務に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩室が別の階に確保されていており、ゆとりをもって働けるよう考えられている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回、内部の勉強会を開き、外部への研修にも参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で他施設の方々と交流・情報交換を行いサービスの向上に励んでいる		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様とのコミュニケーションを多く取り、安心して頂ける様努めている。又不安や要望等日常会話等からも汲み取るよう心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の面会時や電話の対応時に、心配事や要望等伺い安心して頂ける様努めている。又面会時には現状報告を行い、信頼関係が築ける様努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に本人とご家族様の要望を聞き、支援内容や必要なサービスの利用ができるよう対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様のペースに合わせ、洗濯物たたみや台拭き等できることを一緒にを行い、関係を築ける様努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へ現状報告を行い、問題点等一緒に考え支えていけるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも訪ねて来て頂ける様環境づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様、こえかけや席の配置等を工夫して利用者同士がコミュニケーションを取りやすい様支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡や問い合わせ等があれば対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの暮らし方や希望を把握できるようご本人様やご家族様に話を聞いている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご本人様やご家族様への聞き取りやサマリー、ご本人様との会話等から把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化を見逃さない様、記録等で情報共有を図り、把握できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様の要望や意見を取り入れ、カンファレンス等で話し合い計画に取り入れ作成されている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやカンファレンスで情報を共有し、計画に活かせる様記録に残している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族の意向や、ご本人の状況に合わせた支援ができるよう取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出レクリエーションでは地域の店を利用したり、皆様に希望を聞き楽しめる様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お本人様やご家族様の希望よりかかりつけ医を選択していただき、必要な情報等共有し支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り時やその時々その都度報告し相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、以前は面会に出向いていた。電話等で情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	後方支援病院へ登録し、急変や重症化時には協力を得ている。又ご本人やご家族と話し合い希望に添える様努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応マニュアルは、わかりやすい所においてあり目を通すようにしている。又勉強会で知識・実践力の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害時のマニュアルを作成し目を通すようにしている。又個人支援カード備蓄をし備えている。避難訓練・消火訓練を行い対応できるよう訓練している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時ノックをしたり、排泄や着替えの際はドアを閉め外で待つように対応している。誘導時には近くに行き声掛けをするよう心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の際の洋服や外食時のメニュー等、日々の生活の中でも本人の希望を聞き対応し、表情の観察や傾聴を心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れはあるが、体調や気分に合わせて配慮しながら本人の希望に沿った支援ができるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室を利用している。又一緒に洋服を選ぶ等の支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使ったり希望の食材を使ったり、嫌いなものは別の物を提供する等工夫している。おやつ作りは一緒に作ることもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックを行い、体調や状態に合わせて形態を変更し対応している。水分量も声掛けや好きな飲み物を提供する等、確保できる様努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けや一人ひとりに合わせて歯間ブラシや口腔スポンジ等での支援を行っている。週1回義歯の洗浄や定期的に歯科の往診も受けている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間ごとのトイレ誘導や声掛けを行い、排泄チェック表を使い、パターンの把握や一人ひとりに合わせた誘導ができる様努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて排便状況を確認し、毎朝の牛乳の提供、水分補給や運動の声掛けを行い改善に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが、ご本人様の状態に合わせて時間をずらしたり、次の日に変えたり等対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態によって日中でも居室にて横になれる様支援を行い、空調の管理や夜間はパジャマ更衣の支援をし安眠につながるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を確認し、変更があれば申し送り時等で情報共有を行い、変更後の状態の変化など記録に残している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや広告おり等できる事を手伝って頂いたり、気分転換できる様外食や外出支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があり天気や状態が良い時は散歩に出かけたり、ご家族様にも協力をお願いしている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方には、ご自分で管理して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話の希望時には対応している。又ご家族や知人からの手紙は渡している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度や湿度管理・トイレや洗面台の電球に配慮し、月一回の飾りつけを替えテーブルに花を活けたりして季節感を出している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでは好きな所に座って頂き、利用者様同士が気の合う人と話ができるようにしている。ソファの配置にも配慮して食卓は席を決める際、仲の良い人が近い様配慮している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物や写真・飾り等持ち込まれており、配置などご本人やご家族様の希望に添える様対応している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人で移動しやすい様ルートを確保し安全に移動できる様配慮している。又トイレ・廊下・浴室などは手摺りを設置し、安全に利用出来る様工夫されている		